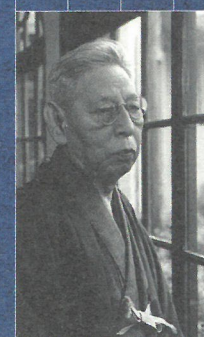


平成26年に記念の年を迎える
主なゆかりの文化人

- 安部公房——作家 [1924-1993] 生誕90年
 伊藤左千夫——作家 [1864-1913] 生誕150年
 井上哲次郎——哲学者 [1856-1944] 没後70年
 江戸川乱歩——作家 [1894-1965] 生誕120年
 木下順二——劇作家 [1914-2006] 生誕100年
 小泉八雲——作家 [1850-1904] 没後110年
 幸田文——作家 [1904-1990] 生誕110年
 佐藤紅緑——作家 [1874-1949] 生誕140年
 佐藤春夫——作家 [1892-1964] 没後50年
 高浜虚子——俳人 [1874-1959] 生誕140年
 高村光雲——彫刻家 [1852-1934] 没後80年
 竹久夢二——画家 [1884-1934] 生誕130年
 没後80年
 中里介山——作家 [1885-1944] 没後70年
 花柳章太郎——俳優 [1894-1965] 生誕120年
 二葉亭四迷——作家 [1864-1909] 生誕150年
 水上勉——作家 [1919-2004] 没後10年
 山本有三——作家 [1887-1974] 没後40年
 吉本隆明——評論家 [1924-2012] 生誕90年



高村規氏撮影

森鷗外をはじめとして、さまざまな分野の文化人が足跡を残した地・文京。その代表的な文化人を顕彰し、文京区の多様な文化的資源を広く発信します。今年度は作家・佐藤春夫を中心に、さまざまな事業を開催します。また石川啄木について、終焉の地である小石川に歌碑と顕彰室を設置します。

森鷗外記念館・ミニ企画（コレクション展開催中のコーナー展示）

①「佐藤春夫 一葉がくれに沙羅の花咲き」

敬愛する作家として森鷗外をあげ、自らを「鷗外の孫弟子」と称していた佐藤春夫。春夫の鷗外への敬慕の情を紹介します。展示のなかで、特に、春夫が鷗外の長男・於菟に宛てた書簡は必見です。

②「石川啄木 一観潮楼の門をくぐった若き歌人」

石川啄木が森鷗外に宛てた書簡3通を紹介します。いずれもぎっしりと文字が書き込まれた書簡です。簡潔な短歌の世界とは異なる、啄木の心情の強い発露をそこにお読み取りください。

会 期：平成26年11月29日（土）～平成27年3月9日（月）
10時～18時（最終入館17時30分）

会 場：文京区立森鷗外記念館（千駄木1-23-4）

休館日：12/24、12/29～1/3、1/26～1/28、2/23、2/24

観覧料：300円（20人名以上の団体240円）※コレクション展のチケットでご覧いただけます。
中学生以下無料、身体障害者手帳等提示の方と介護者1人無料

問合せ：文京区立森鷗外記念館 ☎03-3824-5511

平成26年度文京区企画展

「啄木とぶんきょう 一たかく飛んだ! 26年」

盛岡に生まれ文京区で亡くなった石川啄木の歌碑設置を記念し、その生涯と詠んだ短歌を、残された手紙の複製資料や、解説パネルによって顕彰します。展示を通して、薄幸の人と思われがちな啄木とは異なる一面をご紹介します。

会 期：平成27年2月8日（日）～16日（月）
10時～18時（最終日のみ17時まで）

会 場：文京シビックセンター 1階 ギャラリーシビック（春日1-16-21）

入場料：無料

問合せ：文京区アカデミー推進部アカデミー推進課文化事業係

☎03-5803-1120

石川啄木歌碑・顕彰室

石川啄木は明治45年4月、小石川区久堅町（現、小石川5丁目）で26歳の生涯を閉じました。東京都旧跡に指定されたこの地に隣接して、平成27年春、啄木の歌碑がお目見えします。碑に刻まれる短歌は、啄木晩年の草稿より二首を選び、直筆を活かしたデザインとする予定です。また、同じく隣接してオープンする高齢者施設の一画に、石川啄木顕彰室を開設します。多くの方々の訪問をお待ちしております。

場 所：文京区小石川5-11

開設日：平成27年3月頃（予定）

※詳しくは『区報ぶんきょう』などでお知らせします。

問合せ：文京区アカデミー推進部アカデミー推進課観光担当

☎03-5803-1174

文京ふるさと歴史館・特別展

「ぶんきょうの樹木 ーいま・むかしー」

古写真・絵画・絵図ほか、地域ゆかりの樹木に関する博物館資料を展示します。展示のなかで、佐藤春夫ゆかりのマロニエの木、傳通院の墓所、『文京区歌』の原稿などを紹介します。

会 期：平成26年10月25日（土）～12月7日（日）10時～17時

会 場：文京ふるさと歴史館 地下1階企画展示室（本郷4-9-29）

休館日：10/27、11/4、11/10、11/17、11/25、12/1

入館料：300円（20人以上の団体210円）65歳以上・中学生以下無料、
身体障害者手帳等提示の方と介護者1人無料

※11月3日（日・祝）は無料公開日

文京ふるさと歴史館・史跡めぐり

「文化人の愛したまち 目白台・関口を歩く」

佐藤春夫の旧居跡をはじめ、関口・目白台周辺にある文化人ゆかりの地や、史跡などを訪ねます。

日 時：平成26年12月11日（木）13時15分～16時（雨天決行）

ガイド：歴史館友の会「文京まち案内」ボランティア

対 象：高校生以上 定員：50人（抽選）参加費：40円（保険料）

申 込：往復はがき（1枚2人まで）に「12月11日史跡めぐり」・全員の住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号と返信用にもあて先を明記し、文京ふるさと歴史館まで。締切は11月24日（月）必着。

文京ふるさと歴史館・歴史講座

「佐藤春夫とスペイン趣味」

『^{スペイン}西班牙犬の家』を著し、スペイン風の自邸を建設するなど、スペイン趣味に傾倒した佐藤春夫。その生涯・文学と、当時のスペイン趣味の流行や、芸術、特に音楽の受容などについてお話しいただきます。

日 時：平成27年1月25日（日）14時～16時

講 師：山田俊幸氏（帝塚山学院大学教授） 高野麻衣氏（音楽ライター）

会 場：文京区男女平等センター 研修室A（本郷4-8-3）

対 象：高校生以上 定員：100人（抽選）参加費：200円

申 込：往復はがき（1枚2人まで）に「1月25日歴史講座」・全員の住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号と返信用にもあて先を明記し、文京ふるさと歴史館まで。締切は1月6日（火）必着。

問合せ：文京ふるさと歴史館（〒113-0033 文京区本郷4-9-29）

☎03-3818-7221

その他関連事業（終了分）

講演会（共催：文京ふるさと歴史館友の会）

「佐藤春夫の文学 ー芥川龍之介との友情を中心にー」

日 時：平成26年9月26日（金）

会 場：文京区男女平等センター

講 師：石割透氏（駒澤大学名誉教授）

朗読コンテスト（主管：跡見学園女子大学）

日 時：平成26年10月5日（日）本選

会 場：跡見学園女子大学プロツサムホール

※課題作に佐藤春夫の他、伊藤左千夫、小泉八雲、江戸川乱歩、山本有三の作品を選定。

平成26年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

平成26年（2014）10月31日発行

編集・発行：文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

文化資源担当室（文京ふるさと歴史館）

〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29 ☎03-3818-7221

http://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/

印刷物番号 J0214028 JASRAC 出 1412098-401



没後50年

佐藤春夫

「さとう・はるお」

(1892~1964)
詩人・小説家・評論家

佐藤春夫 昭和39年(1964) 高村規氏撮影*
亡くなる年の誕生日に関口の自邸にて撮影された。

明治25年(1892)和歌山県東牟婁郡新宮町(現、新宮市)生まれ。医師である父・豊太郎が文芸にも造詣が深く、また当時木材業で栄えた新宮では大石誠之助、西村伊作ら先進的な文化人が活動していました。そうした環境の中で春夫は文学少年として成長しました。

明治43年、中学卒業と同時に上京。慶應義塾大学予科文学部に入学、のちに中退。雑誌『三田文学』『スバル』などに詩歌を発表。大正7年(1918)、谷崎潤一郎の推挙により文壇に登場し、以来『田園の憂鬱』『お絹とその兄弟』『美しき町』などの作品を発表して新進流行作家となり、芥川龍之介と並んで時代を担う二大作家と目されました。

その著作は多様多彩で、詩歌(創作・翻訳)、小説、紀行文、戯曲、評伝、自伝、研究、随筆、評論、童話、民話取材のもの、外国児童文学翻訳・翻案などあらゆるジャンルにわたっています。

昭和39年(1964)5月6日、関口の自宅でラジオ収録中、心筋梗塞のため72歳で死去しました。
(新宮市立佐藤春夫記念館HPより抜粋)

*高村規・たかむらただし(1933~2014)
写真家。広告写真や美術作品の写真など幅広い分野で活躍し、日本広告写真家協会会長も務めた。祖父は彫刻家・高村光雲、父は鍍金家・高村豊園、伯父は詩人で彫刻家・高村光太郎。旭日小綬章・文京区区民栄誉賞受章。

文京とのゆかり

住まい

明治43年(1910)に上京して以降、駒込千駄木町や根津西須賀町、大正期には駒込追分町、駒込動坂町、駒込神明町、音羽町などに住んだようです。そして昭和2年(1927)に移り住んだ、小石川区関口町207番地(現、関口3-6-16)が終焉の地となりました。自宅の建物は、大石七分(文化学院の創立者・西村伊作の弟)の設計といわれ、春夫本人もデザイン画などを描いています。昭和60年に解体、新宮に移築され、新宮市立佐藤春夫記念館となっています。また4か所ある墓のひとつが傳通院(小石川)にあります。



自邸前のマロニエの木
春夫の妻・千代(右)と娘・鮎子
昭和40年代頃(個人蔵)

関口の自邸(昭和60年頃撮影)



佐藤春夫の墓所
(傳通院)

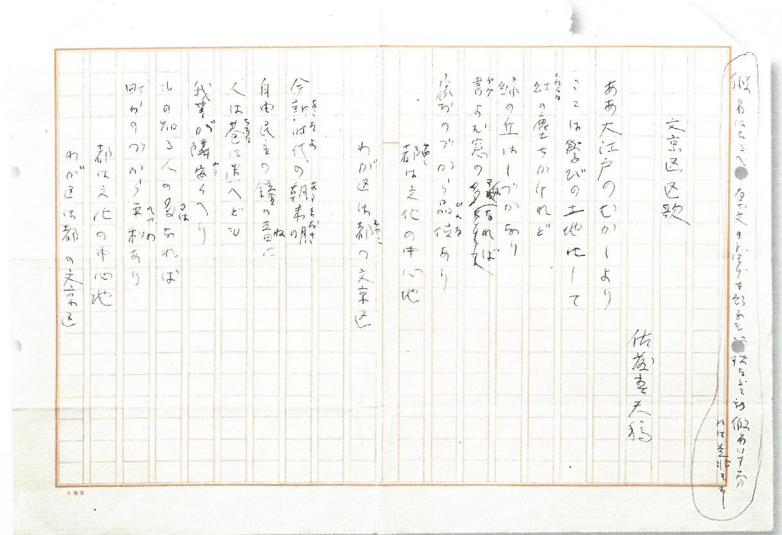


新宮市立佐藤春夫記念館
(同館提供)

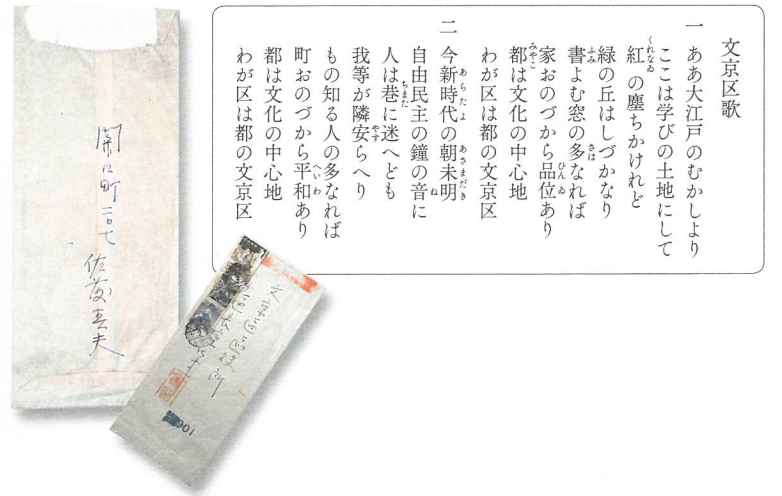


文京区歌

昭和25年(1950)、区の紋章と区民が愛唱できる区歌を一般募集し、区歌には224点の応募がありました。しかし審査の結果、適当なものがなかったため、改めて区内在住の佐藤春夫に作詞、弘田龍太郎に作曲が依頼され、昭和26年3月に制定されました。



佐藤春夫・自筆原稿「文京区歌」(文京ふるさと歴史館蔵)



森鷗外 顕彰

森鷗外を敬愛した佐藤春夫は、鷗外記念会準備会の発起人の一人として、文京区立鷗外記念本郷図書館内鷗外記念室(文京区立森鷗外記念館の前身)の開設(昭和39年)に関わるなど、鷗外の顕彰に尽力しました。春夫が寄贈した鷗外のレリーフ(高田博厚作)は現在、記念館のエントランスに展示されています。